

日本でのバレンタイン・デーとホワイト・デーに発生する恩返し

じょろん
序論：

日本では2月14日に1年1回で「バレンタイン・デー」を祝う。日本では「バレンタイン・デー」を祝うだけではなく、3月14日にバレンタイン・デーに深い関係があるホワイト・デーも祝う。他の国の「バレンタイン・デー」で男性の方から女性にプレゼントを挙げるが、日本では、女性の方から憧れて、愛する男性にプレゼントをあげるという逆なことになっている。日本の女性は愛しい人にチョコレートのプレゼントを挙げる習慣を持ち気味である。チョコレートは好きな男性にだけではなく、親、友人、親友、兄、弟にも挙げる。その上、事業と仕事の関係を深める為に、会社の上司等、同僚にも挙げる。「バレンタイン・デー」の祝いの1ヶ月後、男性の方は「バレンタイン・デー」に女性からもらったチョコレートのプレゼントの恩返しをしないといけない時が来る。女性達からももらったチョコレートのプレゼントの恩返しをする日は「ホワイト・デー」と言う。チョコレートをももらった男性はもらったチョコレートの数と同じ

かず おんがえ
数で恩返ししないといけない。「ホワイト・デー」の^{ため}為のチョコレート、

キャンディ、^たその他のプレゼントを^{ほんばい みせ おお}販売する店が多いので、^{なんにん じよせい}何人の女性の

^{ともだち}友達からもらったチョコレートの^{おんがえ わす}恩返しに^{りゆう}忘れるふりをする理由がない。

ほんろん
本論：

^{にん みこん にほんじん だんせい}13人の未婚の日本人の男性と ^{にん みこん にほんじん じよせい きにゆう}12人の未婚の日本人の女性に記入し

てもらったアンケートの^{けっか もと}結果に基づいて、「バレンタイン・デー」の^{とき}時、

^{じよせい だんせい}女性は男性にチョコレート、キャンディ^も若しくは^{ほか}その他のプレゼントを^あ挙

げることで「バレンタイン・デー」を^{いわ}祝う。しかし、^{みこん にほんじん じよせい}未婚の日本人の女性

にとって、「バレンタイン・デー」で、^{す だんせい ため}好きな男性の^{ため}為にチョコレートを

^{つく}作って、^あ挙げる^{たが}ことが^{うれ}互いに^{いわ}嬉しく^{たの}祝って、^{うえ}楽しむことである。その上、

^{じよせい}女性はある人に^{ひと かんしゃ かたち}感謝する^{ほか ぶれ ぜん と}形としてチョコレートか^{ほか}その他のプレゼントを

^あ挙げる。「バレンタイン・デー」は^{にほん れきし}日本で^{しゅうかん}歴史となつて、^{しゅうかん}習慣になつた

ので、^{いわ}祝わなければならない。「バレンタイン・デー」を^{いわ}祝うことで、

^{にほんじん かんしゃ きも つた}日本人は感謝する^{きも}気持ちを^{つた}伝えることができる。

「ホワイト・デー」は男性が「バレンタイン・デー」のイベントの
恩返しをする日である。男性がチョコレートやその他のプレゼントで恩返
しをするのは、日本人の男性にとってあるものをもらい、そのものを返す
のが「恩返し」という日本人の精神であるためである。その恩返しをする
ことで、日本人の男性が女性に感謝する気持ちを伝えることができる。

「バレンタイン・デー」で女性がチョコレートやその他のプレゼン
トをあげる時、女性は「恩」をあげる役目で、男性は「恩」をもらう役目
になる。「恩」というのはある人がもらったものに付けられた心理的で、
社会的の借金である。その後、「ホワイト・デー」で、男性はその
「恩」を払う。このことは「恩返し」と言う。女性からもらった優しさを
はらうために、男性は「ホワイト・デー」を言わなければならない。もしそ
の男性が恩返しをしないかそのことを断る場合、「恩知らず」という
義務と感謝する気持ちを知らない人間として思われてしまうという悪い
影響を受けよう。

けつろん
結論：

みこん にほんじん じよせい
未婚の日本人の女性にとって、「バレンタイン・デー」は女性が
たにん やさ たい かんしゃ きも
他人から優しさに対する感謝する気持ちとして、チョコレートとその他の
プレゼントをあげる日である。「バレンタイン・デー」は恋人に感謝する
ためではなく、かぞく しんゆう かいしゃ どうりょう じょうし かんしゃ ため
の為ではなく、家族、親友、また会社の同僚と上司に感謝する為でもあ
る。みこん にほんじん だんせい じよせい
未婚の日本人の男性にとって、「バレンタイン・デー」で女性から
じぜん
事前にもらったチョコレートやその他のプレゼントの恩返しをする日であ
る。「ホワイト・デー」もだんせい
男性がチョコレートとプレゼントをくれた女性
ひとびと かんしゃ きも つた ひ
と人々に感謝する気持ちを伝える日でもある。このことは日本での「恩返
し」というげんそく
原則である。

DAFTAR ISI

HALAMAN PENGESAHAN	i
HALAMAN PENGESAHAN ORISINALITAS	ii
PERNYATAAN PUBLIKASI SKRIPSI	iii
KATA PENGANTAR	iv
DAFTAR ISI	v
BAB I PENDAHULUAN	1
1.1 Latar Belakang	1
1.2 Pembatasan Masalah	5
1.3 Tujuan Penelitian	5
1.4 Metode Penelitian	5
1.5 Organisasi Penelitian	7
BAB II TEORI TINDAKAN SOSIAL	9
2.1 Teori Tindakan Sosial	9
2.2 <i>On</i> dan <i>Kaeshi</i> (恩, 返し)	17
2.3 Sejarah <i>Valentine</i> di Dunia	21
2.4 Sejarah <i>Valentine Day</i> dan <i>White Day</i> di Jepang	24
BAB III ANALISIS VALENTINE DAY DAN WHITE DAY	
DI JEPANG	28
3.1 Pria Jepang Mengetahui dan Merayakan <i>Valentine Day</i>	29
3.2 Bagi Pria <i>Valentine Day</i> Wajib untuk dirayakan	34
3.3 Balas budi (<i>ongaeshi</i>) pada <i>Valentine Day</i> Menurut Pria Jepang	39
3.4 Menurut Pria Jepang <i>White Day</i> Wajib untuk dirayakan	52
3.5 Pandangan Wanita Jepang dan Kewajiban Merayakan <i>Valentine Day</i>	57

3.6 Pandangan Wanita Jepang Terhadap <i>White Day</i>	67
3.7 Balas budi (<i>ongaeshi</i>) pada <i>White Day</i> Menurut Wanita Jepang	74
BAB IV KESIMPULAN	77
DAFTAR PUSTAKA	82
LAMPIRAN	vii
SINOPSIS	xii
RIWAYAT HIDUP PENULIS	xvi

RIWAYAT HIDUP PENULIS

NAMA : Vinna Chandra
JENIS KELAMIN : Perempuan
TEMPAT/TGL. LAHIR : Bandung, 15 Januari 1990
ALAMAT : Jl. Terusan Cibaduyut no. 36, Bandung
NAMA AYAH : Hery Janto Tjandra
NAMA IBU : Evie Maria Tasrif
AGAMA : Protestan
EMAIL : chandravinna@gmail.com

PENDIDIKAN :

2005 – 2008 SMA Advent Naripan
2002 – 2005 SMP Advent Naripan
1996 - 2002 SD Advent Naripan